

第6条 あいさつの習慣化

長与町では、生活の基本である「あいさつ」を通して、子どもの豊かな心を育もうと「オアシス運動」に取り組んでいます。また、町内の小・中学生を対象に標語コンクールを毎年実施し、11月の「町民のつどい」で発表・表彰しています。以下は、昨年度の入賞作品です。

笑顔になる まほうの言葉 ありがとう
あいさつは 「こころ」と「こころ」 むすぶ糸
あいさつが 町みんなの エネルギー

「オアシス」とは、砂漠にあって、唯一水がわき、緑が繁茂し、隊商の命をつなぎ休息を与えてくれる貴重な場所。そこから、「人に精神的な潤いと安らぎを与えてくれる」場所を言う言葉としても使われます。

「おはよう」…朝のさわやかな気持ちの交換
「ありがとう」…感謝の心
「シつれいします」…謙虚さ、譲り合いの心
「すみません」…素直な気持ちで謝る心

これらの言葉に込められた思いは、人と人が支え合う社会形成の基本となるものです。10か条アンケートでも、9割以上のご家庭で実践されていました。

また、あいさつを交わすことには、防犯や不審者対策の効果もあります。あいさつをすれば、当然顔を見交わし声を聞かれます。不審者は、地域の人に顔や声を覚えられては困るわけです。

あいさつを交わせば、お互いの心に優しさや温かさが感じられ、自然と笑顔になります。そして、一日を元気に過ごす力がわいてきます。初めに挙げた小・中学生の標語を見れば、子どもたちは、もうあいさつの持つこれらの力をちゃんと感じ取っているようです。

町内の子どもたちは、すれ違うときの子も元気にあいさつをしてくれます。そんなとき、はっとすると同時に何とも言えないさわやかな気持ちになり、こちらも思わず負けられないの大きな声であいさつを返しています。そして、とても幸せな気分を満たされます。家庭でも、普段の何気ない親子のやりとりの中で、子どもから思わず「ありがとう」と言われたとき、素直に育ってくれたなと嬉しくなり、愛おしくなります。そして、親からも「ありがとう」と言おうと思ったりします。

9月の全日本女子ソフトに引き続き、来年はいよいよ「長崎がんばらんば国体・大会2014」、そして2020年には「東京オリンピック」が開催されます。様々な地域や国の人々との交流が予想される中、「心と心をつなぐあいさつ」で、「おもてなし」の気持ちを伝えましょう。

「オアシス運動」は、思いやりと潤いに満ちた心豊かなまちづくりにつながる最も手近な方策なのです。

第6条 あいさつの習慣化

こころ、こころ
心と心をつなぐ
明るい あいさつ

おはよう！
こんにちば
こんばんは



感謝の気持ちは「ありがとう」のひとことから伝わります。